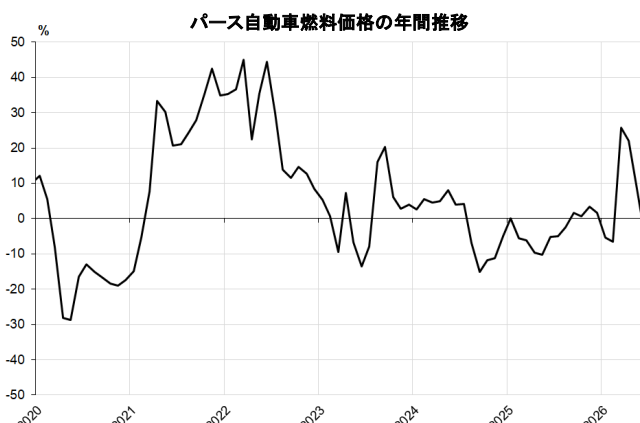
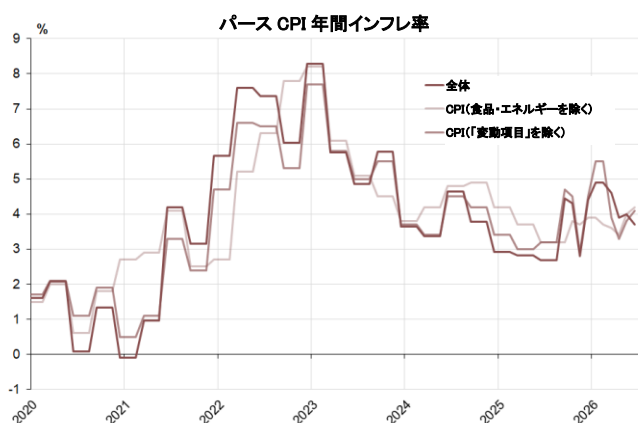


西オーストラリア州関連データハイライト

- パース CPI 年間インフレ率は 6 月に 3.7%に低下し、2025 年後半以来最低レベルとなった。
- 西オーストラリア州の雇用者数は 6 月に 17,200 人増加した一方、失業率は 4.2%に低下した。
- 西オーストラリア州の住宅用建物建設許可件数は 6 月に 10.7%増と大きく伸び、通年で 23.9%増となった。
- Cotality によれば、パースの住宅価格は 7 月に 0.1%上昇し、年間上昇率は 20.5%となった。

2026 年 6 月度パース消費者物価指数

- パース CPI は 6 月に 0.2%低下し、年間の全体インフレ率は 0.3 パーcentageポイント減の 3.7%に低下した。これは 2025 年後半以来最低レベルであり、2022 年のピーク時を大きく下回っていた。
- 年間インフレ率低下の主因となったのが輸送コストの伸びの鈍化であった。自動車燃料価格は前年同月比 4.4%下落したが、この背景には燃料減税および米イラン戦争再燃前の世界的な原油価格の一時下落があった。都市交通運賃も、パースでの均一運賃制導入に伴うキャリーオーバー効果により前年同月比で 12.6%減少した。
- 6 月の住宅インフレ率は前年同月比 5.7%とほぼ変化がなかった。新規住宅購入費用は前年同月比 8.4%増と大きな伸びを見せた一方、賃料の年間上昇率は 5.3%に留まった。光熱費は 5 月と同様の前年同月比 3.2%増で、エネルギー料金救済措置に伴うベース効果を原因として本年初に記録した 2 桁成長を大きく下回った。
- また、インフレ率上昇がみられた項目には食品 (0.3 パーcentageポイント増の 3.5%)、衣服・履物 (1.1 パーcentageポイント増の 5.4%)、通信 (0.2 パーcentageポイント増の 2.1%)、レクリエーション・文化 (0.2 パーcentageポイント増の 4.5%)があった。
- 国際輸送費上昇の一因となったのが、過去数カ月は減少が続いていたが米イラン戦争に起因する飛行機旅行への影響の緩和により大きな伸びを見せた海外休暇旅行・宿泊費用であった。これを相殺したのが、伸びが鈍化しつつも前年同月比 7.7%と高水準を維持していた国内旅行費用であった。
- 全体インフレ率と対照的に、6 月の基礎的指標はわずかな上昇を見せた。食品・エネルギーを除いた消費者物価は前年同月比 4.2%上昇となり、月次データ発表開始からの短期間で最大の伸びを見せた。果物、野菜、自動車燃料などの変動項目を除いた年間インフレ率は 4.1%に上昇し、4 か月ぶりの高水準となった。
- 分析データ系列で見ると、インフレ率低下の一因となったのがサービス価格成長率の鈍化 (0.7 パーcentageポイント減の 3.0%) で、これを部分的に相殺したのが物品価格成長率の上昇 (0.3 パーcentageポイント増の 4.6%)であった。裁量的項目価格は 6 月に前年同月比 3.9%、生活必需品価格は同 3.5%それぞれ上昇し、これらは 2025 年 4 月に CPI データが月次発表となって以来最大の伸び率であった。



出典: Australian Bureau of Statistics

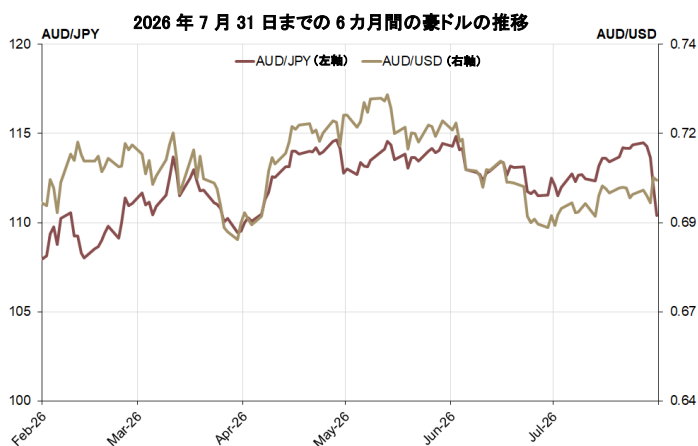
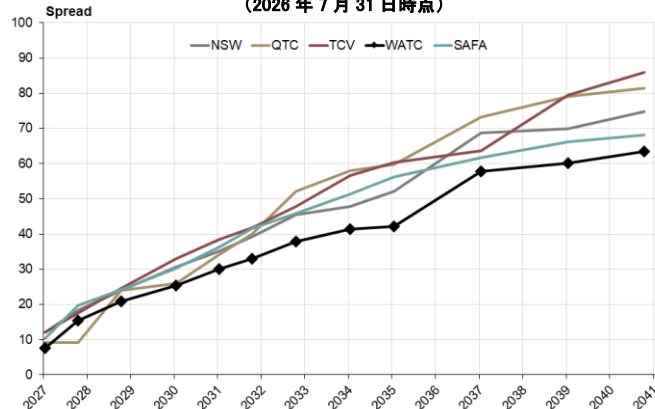
オーストラリア金利(%)			為替と株価		
RBA 政策金利目標	4.35	(0 pt)	AUD/USD	0.7019	(↑1.4%)
90 日銀行手形	4.50	(↑4 pt)	AUD/JPY	110.39	(↓1.9%)
連邦政府 3 年国債	4.49	(↑13 pt)			
連邦政府 10 年国債	4.93	(↑20 pt)	ASX200	8977	(↑198 pt)

市場概況

- 7 月のオーストラリア国債利回りは、国内外両方のインフレおよび金融引き締めに対する懸念の再発を反映して上昇した。これらの新たな懸念につながったのが、米イラン戦争の再燃、ホルムズ海峡再閉鎖、他の重要な原油出荷ルートへの混乱を受けた世界的な原油価格の反発であった。6 月の国内雇用者数データが堅調だったことから RBA による政策金利引き上げの予想は一時的に高まったが、国内インフレデータの予想外の下振れが判明したことで月末に向けて低下した。
- 7 月の WATC と連邦政府国債の利回りスプレッドはほぼ変化がなかったが、引き続き他州のスプレッドを下回っていた。
- 政策金利引き上げ予想の高まりおよび一部コモディティ価格の上昇を背景として豪ドルは 7 月に対米ドルで 1.4% 上昇したが、月を通じて大きく変動していた。AUD/JPY は 7 月に 1.9% 下落したが、その主因は同月末に日本の財務省が行った可能性がある為替介入であった。
- 7 月の ASX 200 はエネルギーおよび金融の大幅上昇を受けて 2.3% 上昇し、4 か月連続の上昇となった。

WATC 指標銘柄債券の利回り				
満期	利回り 2026 年 7 月 31 日		AGS スプレッド 2026 年 7 月 31 日	
2027 年 10 月 21 日	4.65	(↓8 pt)	+8 pt	(↓1 pt)
2028 年 7 月 20 日	4.67	(↓10 pt)	+15 pt	(↓2 pt)
2029 年 7 月 24 日	4.70	(↓13 pt)	+21 pt	(↓2 pt)
2030 年 10 月 22 日	4.78	(↓12 pt)	+25 pt	(↓1 pt)
2031 年 10 月 22 日	4.89	(↓13 pt)	+30 pt	(↓2 pt)
2032 年 7 月 21 日	4.97	(↓13 pt)	+33 pt	(0 pt)
2033 年 7 月 20 日*	5.08	(↓12 pt)	+38 pt	(↑1 pt)
2034 年 10 月 24 日	5.26	(↓12 pt)	+41 pt	(↓1 pt)
2035 年 10 月 24 日*	5.33	(↓12 pt)	+42 pt	(↓2 pt)
2037 年 10 月 21 日	5.56	(↓11 pt)	+58 pt	(↑1 pt)
2039 年 10 月 24 日*	5.51	(0 pt)	+60 pt	(0 pt)
2041 年 7 月 23 日	5.79	(↓8 pt)	+63 pt	(↓1 pt)

*グリーンボンド

オーストラリア連邦政府国債と各州政府債の利回り格差
(2026 年 7 月 31 日時点)

WATC 指標銘柄債券の利回り

